

大不況です。誰の話もロクな話がありません、どうしたのでしょうか。

そこで、この本を読んで下さっている人にだけ、そつと素晴らしい情報をお知らせ致しましょう。観音様の周りには、実は沢山の神さま、仏さまがあります。左ページは「お金のたまる」仏さまです。

この堂の左側（向って）で、お塩、お線香、お蠟燭ろうそくを頂きます（百円！）、それをお堂に納めまして、（向って）右のかんかん地藏さまを、左図の様にして：これで、不況は脱出です、えっお前もそうしたのですって？「うーん」一寸、お答え出来ません。この他に「縁結びの神様」もありますぞ（そちらへ行こうかな）。

さて、北見さんはこの頃よくうちの子供達にプレゼントをどつきり持つて来てくれて困りました（何しろ両手で持てない程です）。

NHKのドラマ「たけし君ハイ」に出演するから見てくれというので、我家は全員、お昼は集結です：「おでん屋」の親父さんの役でした、それがピッタリ。

程なくして一杯つき合ってくれと言うのでついて行きますと、馬道通りの「丸太格子まるたごうし」というお店でした。

「あの小父さんをモデルにしたんだよ」と北見さん、見ると丸太格子（おでんで有名）の、その小父さんはテレビで北見さんが扮装しているのと同じ扮装をしていました。（流石さすがです）。ちなみに、このドラマでゴクミがデビューしました。

しかし嫌なお話もありました。この頃、北見さんに付、一寸「浅草」誌にかかせてもらおうと思ひ、もう三校まで行き（見直しが終わった）、北見さんに、確認のためお見せしたら「これなら載せないで欲しい」と言うのでした（一杯飲みながら）。それでその時は一日で、何とか「芝崎納豆」のお話にさしかえ、修羅場を乗り越えました（参った）。

土。土。君(シキ草と)散歩

② 寺社の町 2 銭塚地蔵 原えつお



この少し前頃、色々な人にお聞きしたり、本で読んで知ったりした、ささやかな私の浅草の芸能の歴史の知識の天地がひっくり返る様な、意外な人物の登場がありました。

なにしろ、その人の後輩や弟子にあたる人たち、エノケン・ロッパ・シミキンさんをはじめ二村定一さん・中村是好さん・川田晴久さん・デン助の大宮敏充さん等々、世を去ってしまつて、私のささやかなその知識からは、その遙か昔、先史時代（一寸大げさですね）の怪人が（快人ですね）生き返つてこの世に出現したかのようにでした。

その人こそ「浅草オペラの快人!!!」

「田谷力三さん」です。ジャーニン。

なにしろ、エノケンさんが浅草オペラのコーラスボーイの頃、すでに大スター、それがこんな時代に時空を飛び越えて出現したのですから、驚愕です。

そしてさらにびつくりした事は、この再出現の活躍が又、ものすごいのでした。浅草公会堂を人波で埋めます。

「タヤー」「タヤータヤー」「タヤー」。

六十余年の前の様な歓声が起こります。

NHKの昼ドラマに何と！ 昔の自分の役で出演します。

左図のゴンドラに乗って不忍池の上で唄います。

♪「恋はやさし野辺の花よ」♪

昔、自分が活躍した金竜館の舞台に立ち客席を見つめます。

「おお、昔と同じだ」

その生命力の秘密は何んだろうと思つていたら、TVの特集番組で、氏が登場しました。

一に食欲、ビフテキをペロリと食べます。

二に睡眠、一日十二時間以上寝ます。

それに氏にしては若い奥さん。

しかし、その奥さんに先立たれてから、氏はまもなく亡くなつてしまいました。私も何回か実物を見る事が出来ました。これは遙か前の時代からの贈り物だと思ひました。

土・土・君(ミモ、草と)散女歩



② 川のあな町・2

原 えつお



小木曾さんから紹介されて、二弦・琴の藤舎蘆翠師匠ろすいに会いに行きました、（この後、師匠は、蘆船ろせんを襲名されました）。

蘆翠師匠は、本名を根岸喜久子さんと言い、あの六区を創った人、根岸浜吉翁のひ孫に当たる人（小木曾さんから聞いていました）と言うので、つい、顔をのぞき込んでしまいました（浜吉翁は、こういう顔だったのかな）。

普通のお琴は十三弦ですから、二弦とは随分少ないものです。

私の前で「浅草八景」という曲を弾いて唄って頂きました。とても粹な音。

後日、何かの会で、お弟子さん達との合奏も聞かせて頂きましたが、仲々良いものだナと思いました。

さて、蘆翠師匠は60年前の豆びなを見せってくれました（戦下をくぐってきたもので、木目込み人形です）（とても良い造りです）。

「小さくても良く出来ているのよ、昔の人はこういうものを大事にしたのよ」。

何か、この豆びなと二弦琴が同じ心だなと思うのでした。

さてこの頃、織田編集長は一つの思いを頭かぶの奥につめ込んでいました。

浅草は「見る街」「買う街」「食べる街」と言うのが三大キャッチフレーズなのだが、今、健在なのは

はこの内「食べる街だ」！

「食」でいこう。

と言う事で「食べある記」と言うページが始まる事になり「観音裏」から行く事になりました（観音裏は「見番」もあるし浅草でも最も粹なところで良いお店が多いのですが、意外と地元の人でも知られていないのです：事実、私は殆ど知りませんでした）。

「え、私がやるんですか」

前からこういう事はしたいとは思っていたのですが、えらい事になりました。

十・十・君 (浅草) 散女歩

③③ 東流二弦琴

原えつお



さて「食べある記」は先ず観音裏の「尾張さん」「植木さん」「高橋さん」という御三人が毎月四軒づつを紹介して下さり、私がそこへ行きお話などおうかがいするという形式で始める事となり、その最初の四軒の内の一軒の「鳥幸^{とりこう}」さんで、織田編集長と御三人と私とで一杯やりまして出陣式^{しゅせんしき}です。

一番始めは言問通りの「あまさけや」さんに（この時は尾張さんが同行してくれました）。

「あまさけや」さんは、甘酒屋ではなく気楽に一杯しながら御食事の出来るお店です。私に「焼魚定食」と「カニサラダ」を出してくれました。その量の多い事、旨い事、感激しました（幸^{さい}先^{さき}良^きいゾ）。

ところが、良い事ばかりではありません。印刷なったら何と！ 鳥幸^{とりこう}さんが馬幸^{うまこう}になっっているではありませんか。その後ふぐの白子^{しろこ}が百子^{ひゃくこ}になっていたり散々です。

その後、よく校正する事にし、各お店にもその都度確認して頂く事にしました。

これが長く続いて、観音裏から西の方へ回りそして蔵前・鳥越柳ばし方面（つまり浅草公園をぐるっと（周りを）回る事になるとは、その時は思いも及びませんでした。

さて「食べある記」の方は、その位にしないと満腹で消化不良をおこしますので、ここではこの位にさせて頂きます。

左ページの隅田川諸白^{すみがわしよはく}、さて何と読むのでしょうか？ 如何^{いか}ですが、答えはMOROHAKUです（左ページにも書いてありますネ）、清酒の事です。

それにしても、昔は隅田の水でお酒が出来た、それも今の江戸通りあたりに蔵元が立ち並んでいたといえますからすごいですね（左図の円はワンカップ諸白で描きました）「水は命・かっぱは心」後日入る河童連邦共和国（浅草かっぱ村）のスローガンです。かっぱについても後で…。

大々君(ミキ草と)散々歩

③ 川のある町、3

原えつお



諸白(もろはく)とは
今の清酒のニとです



暑中おみまい
申しあげます
三水上バスの
乗場へ
ビールを一杯
なんのは最高
ですが
冷えた
フニカッポ
隅田川諸白も
いいですよ



「食べある記」で観音裏の取材で回っておりますと「グランド」さんで、例の北見さんと会ってしまいました。ここはおいしい洋食を気楽に箸で食べてもらおうと各テーブルには箸が並べられております。

北見さんに氣に入られるお店とは色々な意味で、すごいと思います。

「お腹が痛いから薬を持って来てくれ」と言う時があり、胃腸の痛み止めの「ブスコパン」を持てぬるま湯で飲んでもらいまして「5分位で効くでしょう」と言って部屋を出ますと程なくして追いかけて来ました「いやーびっくりした、もう直ったヨ」と一寸、又、部屋に戻され見ると本棚がありスクラップブックがびっしり。それを何冊か見せて頂きましたが、行ったお店の割り箸の袋などが丹念に貼ってあり、その感想なども書いてあります。俳優のお仲間からもらったハガキなどもていねいに貼ってあります「樹木希林」この人は良い人だよ、「草野大吾」この人は早く死んでしまったがいい奴だったよ、等とつぶやくのでした。「僕が死んだらこれは皆、早稲田の演博（演劇博物館）に寄付する事になっているんだ」等と言うのでした。

今頃は多分、演博の棚に、北見治一著の「鉄笛と春曙」と「回想の文学座」と並んで、あのスクラップブックも並んでいる事と思うのです。

へ北見さんにつきましては、これまでと致しましょう

さて、私の浅草での行動半径も広がり、左図は「橋場」です。橋場はその昔、源頼朝が軍勢を渡らせる為に、舟をつないで橋を作ったから、という説があります。又、最近では（明治・大正）、いわゆる別荘地で風光明媚な所でした。

この一角の橋場通り沿いのツクダオリジナル社の九階に「玩具資料館」があります。子供よりお父さん達の方が喜んでいました。

土・土・君(浅草もと)散歩

③⑤ おもちゃの町 1 玩具資料館 原 えつお

おもちゃの町を
ひっくり返したような町

浅草

浅草の
一角

橋場
一丁目

玩具
資料館
があります

ここは
ツツダビル7F
ビルの
9F皆

大人も
子供も
楽しめます

大人は
200 円

(TEL)
ハセ四・五三三

幼稚園児 50 円
小・中・高生 100 円

(入場料)
(朝) 9 時 30 分より
(夕) 5 時まで

(開館時間)
木・金・土・日・祝日の

★ 12000 点 収蔵
常時 7500 点 展示
しております

黄金バットだ

大人って
むじやきたす

アト4だ
毎分
28号だ

雷5656会館で名画鑑賞会が始まったというので見に行ってみました。

「水島道太郎」さんって、私は老ヤクザの似合う渋い二枚目の役者さんと思っていましたので、こ
うゆう洋画なども詳しいモダンな人とは知りませんでした。

氏はこの時、伊豆の大島に住んでおられ浅草へ通って来られるとの事でした（この後、例の伊豆の
大島の三原山の大噴火で氏も島から脱出する事になりました）。

この時は「マルクスの二丁拳銃」「この時初めてマルクス兄弟の映画を見ました。うーん面白い」、
後日、映画「キネマの天地」で主人公（中井貴一さん）の書棚にこの、「マルクス兄弟」という本があ
り、特高の、「こいつ危険思想の持ち主だ」と言う台詞（せりふ）があつて笑えました。

このあと氏（水島さん）の主演する、「上海帰りのリル」を見ました。森繁さんがやせていて、氏は
太っていて、香川京子さんは今と変わらないで、それに何と言つても津村謙が実際に、「上海帰りのリ
ル」主題歌を歌っている所が写っているのです（自分はこの唄が何故か昔から好きなのです）。

名画会は何回かで終り、しばらくして、五重の塔通りの奥山苑の方に、「水島道太郎さんと語ろう」
等という貼り紙がありました。それも今はなく、氏も何か具合が悪いという話も聞こえて来ていま
す。

さて、この日（左ページ）の相手「吉村平吉」先生ですが、先生のやつておられた「ふきよせの会」
ほかで、江川マストンさん・木木華声さん・加太こうじさん・竹中労さん・パン猪狩さんなど、今に
して思えば特に、感謝・感謝、すごいものを見せて頂いたと思うのです。

その後、先生には「浅草文庫講演会」にて、「エノケンさん」について御講演して頂いたり、「有遊
会」（又、あとで記します）で…（ああ、もうページがありません）。

浅草 (うちぞと) 女 草



③7 日映画の町・Xの1



★11月の上映予定

7日 隊長ブリーバ

(ジャンピエール・オーモン他)

14日 必死の逃亡者

(ハインリー・ホガード他)

21日 旅情

(キャサリン・ハーパー他)

28日 木山 節考

(田中 絹代他)



さあが 往年の二枚目
ピットキマコいる

本日の
トークショウ

俳優

水島道太郎氏

作家・吉村平吉氏



★ 会員になると
入場料半額引き、毎月のプログラム送付など
特典あり (しかも入会金無料)

さて浅草の町は外国人で一杯です。欧米の人はわかりますが、我々と同じだと思っていたら、何やら聞き慣れない言葉が聞こえてきます（中国の人かな）。私は、どこへ行っても「道を聞かれる」と言う、得技？があります。何故でしょう？一寸観光で行った町でも、道を聞かれます。京都では何と！「藤原弘達」先生に道を聞かれました。

しかし、実は私は英語コンプレックスがあつて、特に欧米人が近寄ってくると、ドキドキです（韓国、中国の人だと「筆談」という手があるので、違います：やつぱり、父母、兄弟の国ですね）。

そんな道不案内の外国人観光客の皆さんのために、雷門のハス前の「浅草観光文化センター」には色々な国の言葉のわかる人がいます（私の知人で、スペイン語のガイドをした人もいます）。

「カンノンテンブル・ハドコデスカ」とよく聞かれます。何、天ぷら：最初は面食らいました。うちの近所では、「キクヤホテルドコデスカ」と聞かれます。あつちを曲がつて、こつちを曲がつてというのが、難しいし、面倒くさいので、現地まで連れて行きます。「オー・サンキュー」てな調子。しかしあまりにしゃべれないので恥をかく時が多いのです。「オー・ミステイク」？ 本当はあまり英語好きじゃないのです。

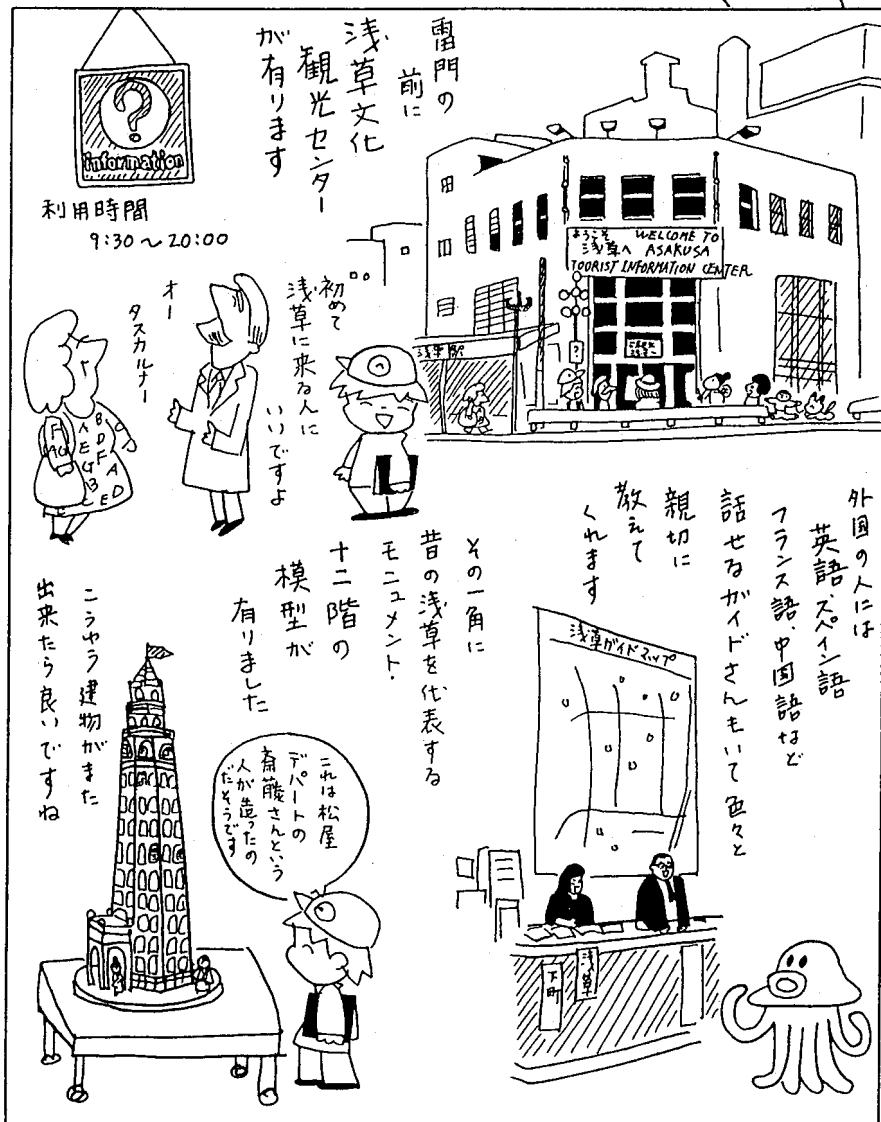
さてこの時、館内に「十二階」の模型が飾られておりました。私は十二階・仁丹塔ファンなので、嬉しく思いました（今は置かれていません）、（両国の江戸博に、可也大きい十二階が来ています。必見！これが浅草にあると良いのに）。

それから今、この三階に「浅草文庫」が仮移転しています（今の館長さんは、西川先生という人で、元、田原小の校長先生をしていた人です）。ここは、浅草に関する書物などが沢山そろっている、「浅草の図書館」です。浅草を知りたい方は是非お寄り下さい。

ポ。ポ。君 (ASAKUSA) 散歩

④ 浅草文化観光センター

原えつお



さて観音裏の「食べある記」も佳境に？入って参りまして、さてその総本山と言うべき、「浅草見番」に突入です。

なにしろ、秘密のボールで覆おおわれている、この一帯でもその中心をなす所ですから、突入には勇気がいりました。

それが何と！二階の、お稽古場けいこを見せて下さるという事になりました（ヤッター）おそろおそろ上って参りますと、パーッと明るく何と広いお稽古場なので、びっくり。丁度どちらかの社長さんが踊っている所でした。じゃまにならぬ様、静かに座ります、次に芸者さん達が華やかに踊ります、そして何と！この世界の人間国宝と言うべき暫間の悠玄亭玉介ほうげんたまけ師匠の踊りです、「ウーンすごいものが又、見られた」（又、得をしました）。

この頃よく、今村先生が浅草公会堂での「有遊会」の勉強会（江戸の笑文芸を勉強する会です）の帰り、二次会（いや、三次会）の、松が谷の「三条」さんに行く途中、我家のガラス戸を開け「よー原くん、良かったら来ない」と言われ、私を誘って下さいました。大抵その時、お仲間の高田さんと堀田さんが御一緒です。

「三条」さんは、奥さんが「三条晴美」と言う芸名でデン助劇団の女優をしていた人で、御主人と一緒にやっている酒処でした。その後、三条さんが「鬼平」や「銭形平治」に出演され、TVで見ましたが「長屋のおかみさん」がピツタリ（流石さすがにデン助劇団で兼かねさんのおかみさんをやっていた人です）。

「銭形平治」の時の話です。「あっち（京都）へ行ったら知らない人ばかりで参ったけれど、伊東四郎さん（前から知っている）が居たのでホツとしたわ。あの人はいい人だから」等と話されていますが、あっけなく検査入院で入ったら亡くなってしまいました（三条さんのお話しも、又）。

浅草 (うち.そと) 散歩



④ 観音裏は粋な町

原 えつあ



石橋蓮司さんと緑魔子さんの「劇団第七病棟」が久しく使われなかったトキワ座で公演をし（掃除が先ず大変だったと思います）トキワ座が廻りました（有難うございます）。

そして久しく使われなかった、その内部（荒れている）を見業に生かした素晴らしい舞台だったと思います。

そしてこの時「下町唐座」が、リバーサイド体育館の脇、竹屋の渡し跡のところに突如、出現しました。

「第七病棟」もそうでしたが、こちらものすごい人気、大行列（私は行列が好きではないのですが、仕方なく並びます）。

異界への入り口を入ると舞台には、巨大なプールが、黒いビニールのゴミ袋をまとった役者さん達が、どんどんその中に飛び込みます。唐十郎さんも飛び込みます。ずぶ濡れです。客席の階段を駆けおりて、柄本明さんが舞台に突入します：そして：何という芝居でしょう（全くわからない）（けれども面白い）、そして石橋蓮司さん、緑魔子さん夫婦が出ます（大体この、緑魔子さんが出てくると不思議な空間が出来上がってしまいます）。テントの一部がサツとあき、お釜の舟に乗った唐十郎さんが外へ出て行きます：しかもその前方向には、竹屋の渡し跡が見えます（ニクイネ）（結局何んだったのだろう）。

この「下町唐座」の建物も期間が過ぎるとなくなっていました。浅草の残念なのは、いつもこんなところですよ（奥山風景も）。

この頃、田谷力三さんが亡くなりました。

この頃、今村先生の誕生会があり、私は三回目の出席でした（この時の記録があり、小さんさん・柳昇さん・円歌さん・小島貞二先生・初見良昭さん（忍者です）、桂子・好江さん等々）。

この頃、又、小島貞二先生の会があり、帰りに「三条」さんに寄り、隣席の紳士から「阿木翁助」と言う名刺を頂き：

女歩 (ミチヨ) 君 (うちもと) 草 (くさ) 十 (じゅう) 十 (じゅう) 十 (じゅう)

原 (はら) 三 (さん) 夫 (ふう) 夫 (ふう) 夫 (ふう)

(43) 芝居の町・2 下町唐座



「ええ！ 阿木先生ですか」：前ページの続きです。

この後、相当酔っ払ってしまったのか、残念ながら、阿木先生と何を話したのか覚えていないのです。しかし後日、又この先生にも、「浅草文化講演会」でお世話になり、しかも、お宅までおじゃまさせて頂く事になるとは、思いもよらない事でした（講演会では「久保田万太郎と浅草」ということで話して頂きました）。

さて、この頃、かつぱ橋本通りの中央のかつぱ寺、曹源寺のそばに、「かつぱの台ちゃん」が出来ました。何とこの位置は台東区でも丁度まん中なのでした。

この作品はかつぱ先生と息子さんの共同製作という事で、羨ましい限りですが、私は昔（小学生の時）、萩原樂一先生のやっておられた、画塾「かつぱ会」へ通っていました（その時は先生がまさかあの有名な…と言っても後で知ったのですが、「北沢樂天」先生の弟子だった、とは少しも知りませんでした）（うまく描けると、もう一枚画用紙をくれます…それが楽しみでした）（又、その頃、かつぱ祭りというものがあ…それも樂一先生がからんでいたのです。後で知りました…とても楽しいお祭りでした）。

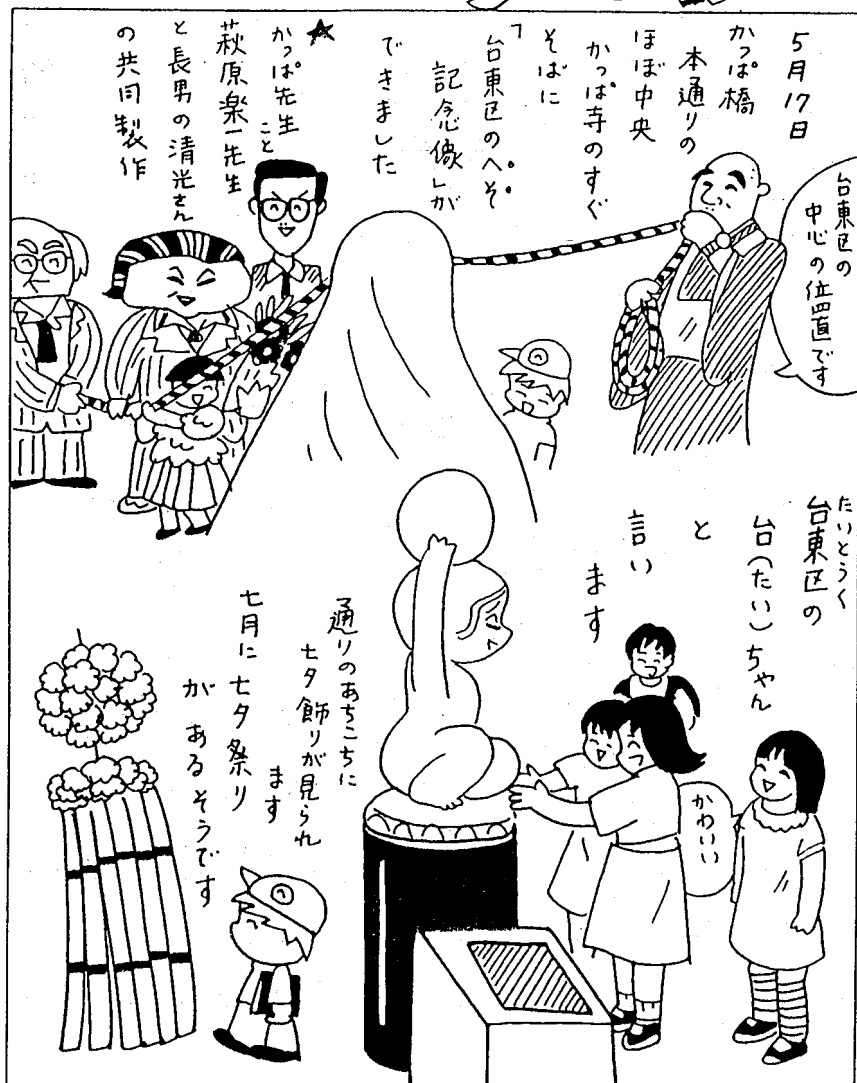
その「かつぱ祭り」は、どうゆう理由で中止になってしまったのか、詳しくはわかりませんが、うちの通りで「七夕まつり」が、行なわれる事になりました。

大体どうゆう材料で、どう作るかわかりません。下町らしい七夕を、という事で名も、「下町七夕まつり」とし、俳句や川柳、どどいつ飾りを作ったり、大道芸やパレードやら、お店毎の手作り飾りなど、盛り沢山で、正直予想以上でびっくりしました。それから、ピエロに扮したり（私も一回だけやりました…この時、メイクは何と！ フランス座のストリップパーの方にやつてもらいました）、写真展や作品展をやったりし仲々です。

お・お・お(ミ・草)君(うち.そと)散女



④5 かっぱの町・その二





◎ 御自分の
狸の絵の前で



↑
今村恒美先生
(高田米造さん
撮影)

← うちの子たちに
良くしてくれた
北見治一さん

◎ 我家の前にて

◎ 下町セタまつり

にー



どうです、皆、かわいいでしょう



福岡 詩二さん

さて、八十九才で大往生された、浅草オペラの快人、「田谷力三」さんの葬儀が、伝法院にて行なわれました。

この日は月曜日で、私は仕事着のまま行列に並ぶ事になりました（あまり伝法院でやるという事は見た事ありません、さすが、田谷力三さんの葬儀です）。

一寸後を見ると、私のすぐ後には、トロンボーンの（私の好きな）、ボン・サイトさんが居ました。何となく華やかな行列が先に進むと、祭壇の近くには、坂野比呂志さんが一人一人に、ていねいにおじぎをしていました（坂野さんが、葬儀委員長だったのです）。

焼香が終り、帰る時、益田喜頓さんが誰やらに取材をされていたのですが、何故か、私の方を見ました。

益田喜頓さんの家は、西浅草二丁目（私も）、私は小さい頃より、よくその中をのぞき込みました（中のお庭はきれいで、町内でも不思議なお宅でした（第一小さいのでよく知りませんし、表札には、木村一、と書いてありました））。

その後、喜頓さんの家だとわかり、その家の御主人もよく見かける様になりました。

その長いコンパスで八幡通りを歩いて、国際通りを越えて行きます。（カツコイイ）。多分、メトロ通りに「ボンソアール」という、喜頓さんの好きなお店があるので、そこへ行くのだろう、と思っていました。

左ページにある、伊豆の長八と言う人は随分、人気があつたそうです。正定寺にも長八の鍔絵があったのだそうですが、今はないそうで、残念でした（実はこのお寺は、明和幼稚園というのを経営されており、丁度この頃、縁あつて、うちの子がお世話になっておりました、奥様にお聞き致したのです）。

その後、親戚の旅行ですが、伊豆の長八の記念館のある（モダンな建物でびっくり）、伊豆の松崎へも行ってみました。

十◎十◎君(浅草と)薙女歩

④ 伊豆の長八

原えつお



料理 道具で

有知な、

かつは橋道具街

の、すぐそば(松ヶ谷2の1)

正定寺(しょうじょうじ)に

伊豆の長八の墓が有ります

幕末から明治

にかけての

鋺(こて)絵

の名人で、しつこい

鋺絵とは、漆喰

を塗った上に、鋺を

描き出した絵で、

わからぬい

涼源寺

(松ヶ谷2の19)に、同じ
孫弟子にあたる山本堪一さんの

作品が
有ります。

★伊豆の

松崎(長八の生

れた町)には、

記念館があるよう

です。

一見の
価値有り

極楽浄土図の一部

さて、関敬六さんの事を書かせて頂きたいと思います。

敬六とは、八波^やと志を尊敬しろ、という意味だそうです。エノケン劇団の出身で、あの渥美清さんの大親友で、やはり大親友の谷幹一さんと三人で「スリーポケッツ」というトリオを組んだり、TVに出たり（この時、敬六さんは、我家に報告に見え、嬉しそうでした）、（しかしTVを見たら一人は違う人でした）（敬六さんは、フランス座時代から、時々我家に見えるのでした）（したがって、我家では昔からのファンという事になります）。

その敬六さんが、デン助劇団が居なくなつて淋しくなつてしまつた浅草の：「松竹演芸場」の舞台に颯爽^{さつさう}と現れたのです、スポットライトを浴びた、その白づくめのスタイルは、かつこ良かったです（昭和50年の事です）、その後私は仕事の関係で、信州の松本に住む事になりましたが、「関敬六劇団」のある時はなるべく上京して来しました。

その舞台で「ガマロ」こと、「高屋朗^{たかやほから}」という喜劇役者の名を知つたのです。

その「高屋朗^{たかやほから}」さんを、シミキンさんの映画の中に見つけ、その事で又、今村先生と最初にお会いした時、話す事になつたのです。

「関敬六劇団」は、松竹演芸場がなくなつた後もがんばりまして（しかし他の町へ）（私も見に行きましたが、他の町で、「浅草・浅草」と連呼しても悲しい事でした）。

トキワ座が再開になつた時、「敬六劇団」も出演しました。そして、トキワ座が又、閉館する時も：この時、実は今まで何回もお誘ひ頂いたり、私が連れていこうと思つても、敬六さんを見にいかなかった（芸人さんとあんまり仲良くなつてはいけなひと思つていたのでしょう）父が、見に行きました。敬六さんの話も長くなりますので、ここはこの辺で：。左図に私の大好きな、仁丹塔が、この時一寸復活？ しました。

六六君 浅草 薺女步

④ 淺草與山風景

原 えつあ、



さて、「食べある記」は、観音裏の御三人から、吉原の方へ……こちらでは、石井敏夫氏、松葉屋の若旦那・福田清一氏、大黒鯨の小泉輝家氏に、大変お世話になりました（皆さん有難うございました）（この本は「食べある記」の本でないのです、一つ一つ載せられなくて残念です）。

さてそれより西の方へ回りまして……森本佳直・秀直御兄弟、松本三九郎氏、松倉久幸氏、新井かをるさん・富沢順子さん、嶋村雅文氏、宮本康良氏、杉田秀蔵氏とおばあちゃん、竹内武彦氏、佐藤勝博氏、小沢季弘氏、久米健弘氏、道祖土脩浩氏、高橋邦郎氏（ウーン、随分多くの方々に、お世話になったんですね）。

左図は、この、宮本康良氏（氏は、ご存じ、御神輿と太鼓の、宮本卯之助商店の、西浅草店の店長で）の時、4Fに、この前の年、オープンしたという、「太鼓館」も見せて頂いた時のものです。実際に叩けるので嬉しいのです。後日、二人の美容学校の女生徒を、御案内し、喜ばれたりしました（特に若い女性を、浅草案内する時にお推めですよ）。

この頃、天皇陛下（昭和天皇）の病状悪化で「浅草」の出版元である、東京宣商も大あわて、かっぱ橋道具まつりは？ 浅草まつりは？ 丁度ポポ君の原稿をお届けに行った時、電話がジャンジャン鳴っていました。

「えっ！ 中止」

二・三日前に銀座まつりも中止を決め、全国の旗屋さんから日の丸が消え（売れすぎて）た、という情報が入ったり……あ、これは前ページの所の文章だと良かったですね、なんとか「奥山風景」は、この時出来盛況でした。（良かった）。

一月七日、昭和天皇が亡くなり、昭和から平成となりました、一月七日は例年、待乳山聖天の大根まつりですので、行ってみましたら、無事？ 行なわれており、ふろふき大根で一寸一杯頂き、私の平成が始まるのでした。

お・お・君 浅草散歩

⑤1 世界の太鼓がそろっている
太鼓館



かつぱ橋通り（正式には、合羽橋本通り）では、町おこしの為、七夕まつりをやろうと言う話が持ち上った頃、板久いたくさんと言う人が来て、かつぱ橋だから、かつぱという様な話をしてくれまして、「浅草かつぱ村」が発足しました（ちなみに、村長は、モリモトふとん店の森本さん、助役が私で、収入役が、どぜうの飯田屋の飯田さんとなりました）。

後で判ったのですが、この板久さんを副大統領とする「河童連邦共和国」には、加盟国？が多く、人口（河童口かな）も千人を越えるというので、びっくりしました。

この頃、手塚治虫先生が60才で亡くなりました。私も葬儀の大行列に並び、前の方へ進むと、アトムと火の鳥の画と先生の大きな笑顔の写眞があり、その下に葬儀委員長の加藤芳郎先生がムスっとした顔で、馬場のぼる先生が、シヨボクレた顔で立っていました。

私は十八才の頃、秋玲二先生、金森健生先生を中心に、働く若者たちの為に開校された、マンガの学校（YMCAマンガスクール）で、その二先生はじめ、西川辰美先生・うしおそうじ先生・小島功先生・根本進先生・やなせたかし先生・那須良輔先生・富田英三先生・上田とし子先生・武内つなよし先生・玉川一郎先生・森熊猛先生・松下井知夫先生、等々（ものすごい陣容でしょう）に、教えて頂いた事があり、特に手塚治虫先生は、憧れの的でしたから、ドキドキしたものでした。

その手塚先生はじめ（と始めますと又、漫画家の列記になってしまいますが、壮々たる人々の漫画が天井にびっしり）。

これは昭和31年当時、北沢楽天先生につらなる先生方が一枚づつ天井画を描いたのだそうで、後日、知りました。（後日、今村先生と、私と、森本村長の絵が加わる事になりました）。

かつぱの手のミイラ？ 本当にありますよ、私はこれを見せてもらうのに、3回通ったのでした。

浅草薮女君の 木々

⑤③ かつばの町・その4

原えつあ



◎ 浅草かつば村へ連絡したい方は (844) 0641 森本さんまで

さて、「浅草かつぱ村」の、森本村長は、「浅草芸能大賞」の、区民審査員をしているのですが、私にも…と言うお話で、私も、区民審査員にして頂く事にしました。

それから、何回か「大賞」「奨励賞」「新人賞」と記入してポストに入れるのですが、いつも私の選んだ人は選に入らなかったのですが、この時、初めて、私の選んだ人が選ばれました。「関敬六さん」です（最も私は、敬六さんを大賞に選んだのですが）。

しかし敬六さんは、「大賞」に一人で選ばれるより、もっと嬉しかったのではないかと思います。なにしろ、大親友の「渥美清」と、ダブル受賞なんですから、谷幹さんも駆けつけてくれました（良かった、いい風景だな）。

左図で、上の方でベレー帽をかぶっている人が、今村先生です、審査委員長なのです。

今村先生が、渥美さんに賞品など渡すと、渥美さんは、その重さによって見せるのでした。敬六さんの賞品は、サアーっと、谷幹さんが盗んで行きます。「おーい待ってくれ」…流石に一寸の時間をお笑いにしてしまうのでした。

敬六さんはいつも、「関敬六」劇団をやる時はチラシなど我家に持って来てくれました、ところがある夕方、四・五人の人を連れて来てくれた事があります。その最後部に居た黒いジャンパーを着て、確か同じような黒い野球帽をかぶった人が…「この人が、長男さんのヨメさんかい」と、聞き覚えのある声で言うのです。そしてその人を見ると帽子を少しあげ、あのいつもの笑顔がのぞきました、「寅さんだー」、近所の人もびつくりする様な声を、うちのヨメさんがあげました。

一行は、ハス前にある、どぜうの「飯田屋」さんに行き、帰りに、うちに寄ってくれたのでした。その次の日、私達は、「寅さん」の映画を見に行ったのでした。

君の浅草散歩



⑤④ 浅草芸能大賞



写楽は誰か??

色々な人の謎解き本があり、しかもそのどれもが、熱気をはらんでいる力作ぞろいですが、（私も10冊位持っています）。

北斎？ 歌麿？ 能役者？… 恥かしながら、この中の、京伝説にて山東京伝という人を知りました。

「えっ！ お前は、誰が、写楽だと思うか」と言うのですか、「ウーン」、それぞれの説が、それぞれ説得力があつて、悩むところですし、最後の決め手がないのが、このミステリーの魅力でもあります。

いずれにしても、版元の蔦屋重三郎氏と、弥次喜多で有名な、十返舎一九氏が、キーマンである事は間違いない様で、特に、一九氏は、自分の葬式の棺桶に、花火を仕掛けたくらいですから…これは（つまり後世の人が、写楽の謎解きで狂奔^{きやうほん}する様に）、一九氏の仕掛けた、仕掛け花火なのじゃあないかなと思うのです。

さてこの頃、加太こうじ先生が、近所の珈琲店「ピーター」さんの壁に、絵を描いている、というお話をお聞きし、早速、おじゃましましたのでした。

題して、「浅草ビッグパレード」…浅草の幾多の大スターの人々を描いたもので（私が、おじゃました頃は、殆ど出来上がっていました）…エノケン、シミキン、田谷力三、荷風先生、チャップリン…もちろん！ 黄金バッド…SKDの各スターの皆さん、デン助さん…

昔から、加太先生って、下町って感じが身についている、という感じで、この時も、近所の諏訪肉店の包みをぶら下げて、これから、東・金町の御自宅まで帰るのだそうで、「ウーン、絵になる人だな」と思うのでした。この時、記念に頂いたペインティングオイルの空瓶をなくしてしまいました、残念。今も、ピーターさんに行きますと、黄金バッドの高笑いが聞こえてくるのです。

浅草歌歩 君

⑤ 京伝机場

原えつお



写楽 浮世絵最高値 6千万円



消税 反対

なにと
話題のたない
謎の絵師



写楽ですが

その写楽の正体の
有力な説の一つ

戯作者

さんとうきょう伝の
山東京伝の
机場の碑が

三社様の裏にあります



9才の時、
寺子屋に

入る時

親が買ってくれた

机を生涯

百部を越える
戯作を二の机で

書いたとありますね

随分物を大切に

する人だった

のですね

京橋の伝
蔵と京伝さ



本当にこんな
ふうまんな顔の
人だったのかは？

左図の所へ行くと、台東区が見渡せます。台東区は、昭和22年に、浅草区と下谷区が合併し誕生したのです（T・A・I・T・O・Uと読める人は少なく、多くの人が〈区民でも〉、D・A・I・T・O・Uと言うのが）。

さて、私の、「ボボ君の浅草散歩」の浅草は、この「浅草区」を浅草と考えています。

まあ、そんな事はどうでも良い事です。第一、浅草の町は、今までも多くの、外なる人達の、夢と希望が熱気となって、支えてくれているのですから。

左図の、上野公園の所が緑色に、不忍池の所が水の飲み場になっていて、笑えますが、よく考えると、浅草だって、浅草公園（文字通り）だったのですから、一寸、笑えませんか。

さて、私はY・M・C・A漫画スクールのあと、しばらく、秋玲二先生のお宅（皆で勉強会をしました）へ通ったり、富田英三先生の、クロッキー教室へ通っていたりしましたが、白土三平先生や小島剛夕先生の、日本画の線がいいなと思って、美術手帳を見たら、丁度出ていました、「霹靂社日本画教室」にも通う事にしました。主宰は、平子聖龍先生で、内弟子の方が三人位、居まして、何となく私もそんな感じになりました。

日本画は、独特の正座で描きます。最初は、先生が用意して下さった、新聞紙を四ツに切ったものに、四君子の描き方をやります（要するに、曲線や直線や集合の勉強です）（私はすぐ足がシビれて、ふらふらと立ち上がり、ふすまに触れたら……ふすまごと、隣の部屋に倒れていった事があつたりしましたが、上達は全くで、駄目な弟子でした。

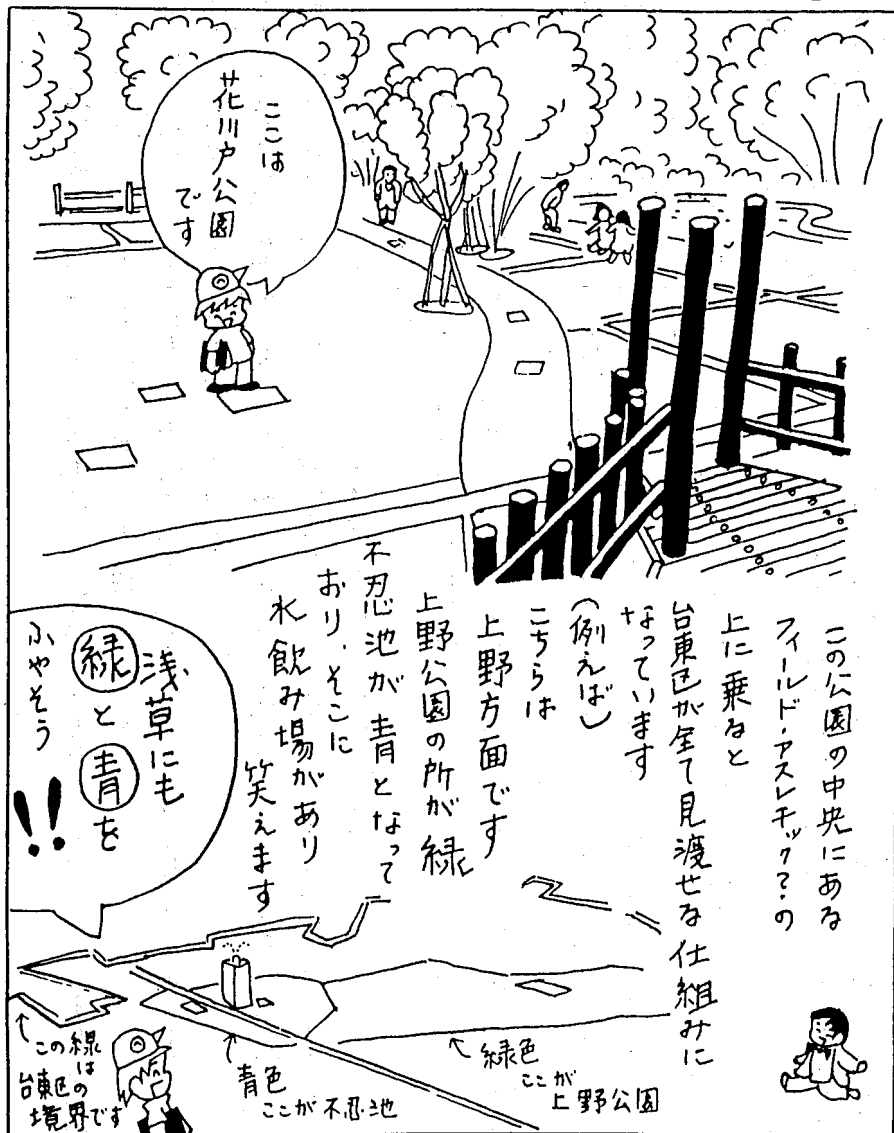
その霹靂社が、上野のお山の、都美術館で毎年一回、展覧会をやっていました（古い建物の頃からです）。

その会場で、突然お見合いさせられ（私はサンダルばきでした）、嫁さんと一緒になる事になりました（一寸余計なお話しですね）。

十〇十〇君の浅草散女歩

⑤⑥ 花川戸公園

原えっお



さて、「食べある記」は、この時、松が谷方面を「熊倉一房」氏に、お世話になり、駒形の方へ回って来た所でした。

駒形は、「内藤恒雄」氏（実は、熊倉氏と内藤氏は、私の高校の時の友人なのです）と、永井文雄氏で、食のお店の他、左ページの恩田さんへも連れて来て頂いたのです。

恩田さんは、提灯ちようちんがいっぱい（それもその筈、提灯屋さんですから）、それにしても、色々あるものですね、三社まつりの提灯もこうして作っているのですね。

この頃、美空ひばり死亡が新聞の一面トップに載り、「庶民の昭和が終った」と某紙にありました。又、この頃、トキワ座で「花の雲 団九郎一座」を見ました（出演は、由利徹さん・関敬六さん・室町あかねさん・山田隆夫さん・石田英二さん・橋達也さん・大屋満さん・はな太郎さん…）。

お話しは、人情噺「文七元結もつと」です。

由利座長以下大熱演（この日は特に、石田英二さんが面白かった）で、楽しく笑えるのでした。そして、この中にあるお名前のお一人、「はな太郎」さん…この人には、一寸した思い出があるのでした。

私は、昭和47年に、某製薬会社に就職したのですが、その同期の人で、金丸くんという人がいて、浅草を見たいと言うので色々回り、松竹演芸場で、はなさんの「コミック浪曲」を見てから、今のフラー通りの「一六酒場」さんで乾杯しながら…

「さつきのコミック浪曲つて面白かったネ」等と話しておりますと、奥の席から、ド太い声で、「ちよつとおいで」と声がします。

そちらを見やると、先程の、はなさんではありませんか。はなさんは、北島三郎さんの司会で有名だと言う、及川さんという人と弟子の人と三人で飲んでいたのでした。そして新入社員の二人はおごってもらったのでした。

浅草散女 君の浅草散女

⑤ 職人の町 493

原えつお



なんと！
安政の大地震の頃
には、
もう
やう
おうれた
という
駒形二丁目の
提灯の
大嶋屋
恩田
さんに
あじやましました

この字体は
干社れと同じです
江戸文字
二れは昔の
看板ですな
米ですな
最近
結婚式や
出産や新築の送りものに喜ばれているそうです。

▲桶形提灯
▲大形提灯丸形
▲高張提灯
▲手丸弓張提灯
▲大形提灯長形

おいぶん
種類が
あるの
ですな

三社

★マメ知識... 三社祭りの提灯は、型は同じでも
毎年、色と柄がちがっているのだそうです。

さて、「食べある記」は、駒形の内藤氏から、蔵前の、福谷氏へ、バトンタッチして頂きました（お二人は、仕事のお仲間です）。

この頃、「ポポ君…」の方は、なるべく「食べある記」の場所と違う場所の話題をかこうとしておりましたので、左図の様に絵と文が、一寸合いません。

福谷氏は、先ず、町会の氏神様である、第六天・榊神社に連れて行つて下さり、宮司さんから、お話を聞かせて頂いたり。ご近所のお店（ここも、お店紹介でも、かかせて頂きました）で、「打合せを兼ね、一杯おごつて下さるのでした（スミマセン）。

福谷氏は、写真が御趣味で、「大衆演劇の楽屋風景を撮って、作品展に応募したい」と言われますので、知り合いの、音羽三美さん（いきなり登場です、この本のヒロインの一人です）に頼んで、翌日、川崎の大島劇場の楽屋におじゃましましたり、三美さん共、待ち合せて、羽生のヘルスセンターに行ったりしまして作品は見業！^{みごと} 入賞しました（良かったです）。

その頃から、福谷氏は「一銭蒸気」の話をしてくれたのですが、何と、その後、そのミニチュア作品を作るのでした（器用な人です）、今、雷門ハス前の文化観光センター3階に仮移転中の、「浅草文庫」に、その作品がありますので、見に行つて下さい。

さて、左ページは、かつぱ橋道具まつりです（この前の年は、天皇陛下、病状悪化の頃で中止だったのですね）。

私は毎年このお祭が楽しみです。それは、世界のお料理の試食会があるからです（並ぶのが嫌な私も並びます）、たたき売りかつぱ市は、始めたとたん売り切れるすごさ。それから、私の好きなのは、お団子^{だんご}を自動的に作る機械があつたりして、次々と、お団子が作られて出てくるみたいのが、すごく面白いと思います。

十〇十〇君の浅草散花歩



原えうあ

⑥ かっぱ橋 道具まつり




 どうぐまつりだから 10月9日 土曜日のですね。

今村先生の色々な会に、いつも和服で日本髪気になる美女がいました。

その人は、音羽三美さんでした。大衆演芸の女優で、創作舞踊「音羽流」の家元です。

左図で右下にポポ君が居るでしょ。その前の笑顔の美女が、三美さんです。この時は、東武浅草駅より赤城まで来たのです（この時は、三美さんの出演はありませんでした）。

浅草の木馬館はもちろん、川崎の大島劇場、十条の篠原演芸場、小岩の湯宴ランド、羽生のヘルスセンターなど、いわゆる、おっかけです。

一番始めに見たのが、川崎の大島劇場だったせい、大島：が一番印象深いのですが、その日は、座長大会だったそうで、ものすごい熱気で、黄色い（とは言えないかな）声がかかります。すぐうしろの売店で電話の音もします。座ぶとん一枚百円で借りて、空いている所に座ります。ワンカップに柿ピー買って、舞台の熱演を見つめます。あまり前の方だと、埃が飛んできたり、ドライアイスの煙がかぶさって来たりします。「おー寒い」。

役者が見得を切ります、その目元はあやしく、特に鋭い刃物の様です。すごみがあると思います。笑える軽いお芝居と歌謡ショーに踊り、そしてタツプリ泣かせてくれます。

それが、毎日違う芝居をやっているのだそうで、びっくりしました。（一度も見えていない人は行ってみると良いですよ）。

さて、三美さんには残念ながら、優しい旦那様が居ます、郁雄さんです。沢正さんのおばあちゃんの紹介？ で、一緒になったそうです。

音羽流のおさらい会も、沢正さんの向かいにある、「沢田屋本店」さん（舞台があるのです）で年に一度、行なわれます。

それでは、御常連の皆さん、「郁雄さん・三美さん」の健康を願いつつ、乾杯！

君の浅草散歩

⑥ 芝居の町. 4の3



◎ 毎日・出し物が変わるのですね. 知りませんでした。

なんと

浅草に、それも六区に、富士山があつたなんて、想像つきませんねー

今の、ロックスの所です。木造でした。丁度この時、今の電気館ビルのところに、工事の幕がかかり、私には何やら、人工富士のように見えたのでした。

元々、江戸時代に、富士信仰というのが有りまして、本物の富士まで行くのは大変なので、江戸のあちこちに、ミニ富士山が出来ました。浅草では浅間神社がお富士山ですが、一寸、わかりにくいです。ね、入谷の小野照さまとか、品川の品川神社の富士は、わかり易くて、なる程なと思えます（一度行ってみて下さい）。

さて、その富士信仰と、五重の塔の足場に人を入れたら、大評判だった事が足し算になりまして、この人工富士も当初、大好評だったそうです。

そしてこの場所は、日露戦争などを、ジオラマで見せたと言う、パノラマ館（私はこの名が好きです。ね）となり、富士館となり、エノケンさんなどが、がんばった松竹座となり、デン助さんなどの、「松竹演芸場」となり、今、ロックスビルとなりました。

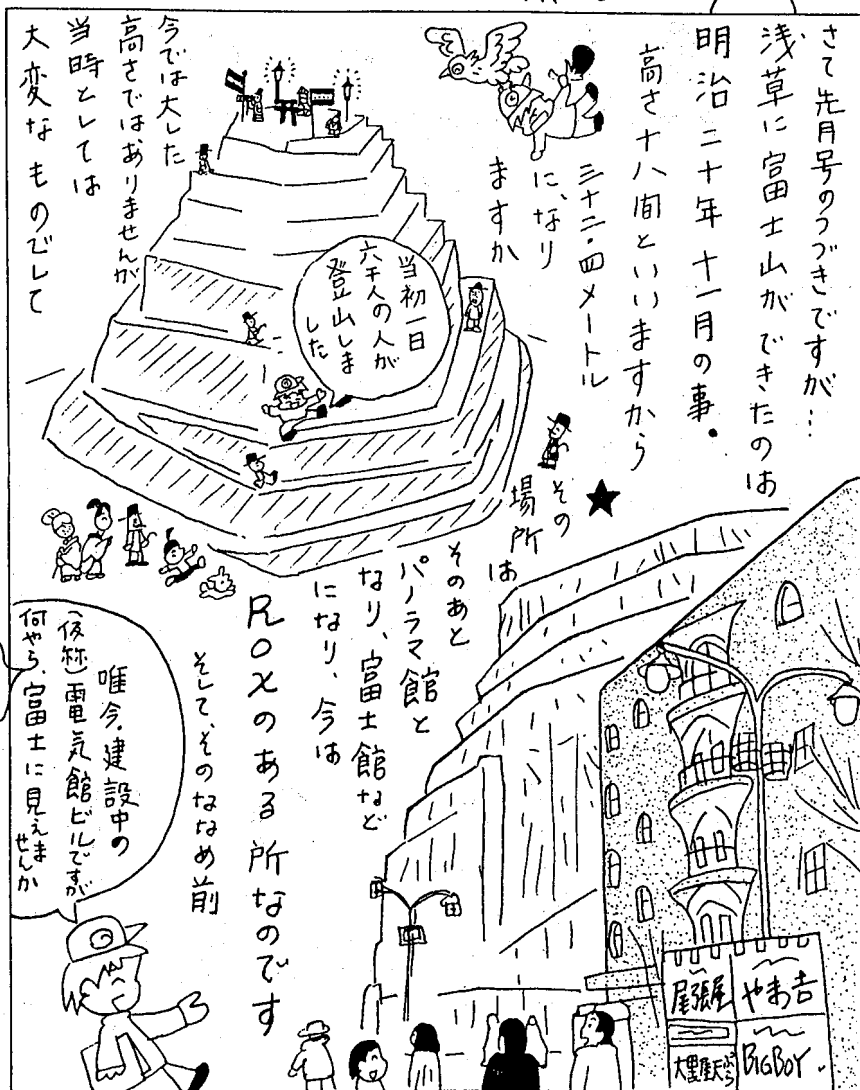
この頃、ここから（ロックス）から、ハス前に見える、電気館ビルに幕が掛けられていて、人工富士の様に見えるのでした。

「食べある記」の方は、この頃、蔵前の福谷さんが、鳥越の秩父さんを紹介して下さいまして、一緒に、秩父さんのお宅へおじゃましましたら（夕方でした）何と！ 御近所の皆さんも集まっています。下さいまして、酒宴です、まるで、井上ひさしさんの「鳥越あずま床」のような、夜が更ふけていくのでした。

（私はここまで何故か、苛いらついてしょうがありません。それは、今まで、かくも多くの皆さんにお世話になりながら、一つもその記事を載せさせて頂いていないからです）（そこで、一つを、次ページに、載せさせて頂く事にしました）。

た。た。君の浅草散歩

⑥富士山のあった町 原えつお



木造でした。

（南） （へ） （も） （ぜ） （ひ）

浅草ガイド

鳥越・浅草橋も佳き店多し ②⑧

御案内役・秩父重郎氏

文とカット・原 え つ お

（先月号の御案内役をやって頂いた福谷さんと、今回の御案内役をお願いしました、秩父さんのお宅へ、おじゃましましたら、近所の皆さんも集まって来、小宴となりました）
原 まるで、これじゃあ、井上ひさしさんの、浅草鳥越あずま床みたいな雰囲気ですね？

秩父 原さん、それはいいところをつきました、そのモデルは、この通りなんです。大正軒さんが、そのお店なんだそうです、いずれにしろ、その様な、古くからの人の多い、下町らしい所です。

原 建物も随分：

秩父 （笑）、そうでしょう、戦災で焼け残ったので、古い家並が残っているのです。この辺にも、焼夷弾は落ちたのですが、皆で消し止めたのだそうです。私は、白石の方へ疎

秩父さん
御夫婦



原 開していたのですが、帰った時、ここから、隅田川が丸見えだったのには驚きました。この町内に商売繁昌と火伏せの神様、箭弓稲荷神社がありますが、震災の時も、周りの20数軒は無事だったそうです。霊験あらたかですね。うちの町内にも来て頂きたいですね。
秩父 （笑）、そうですね、この町内にもう一つ、面白いお話がありますので、それを書い

て下さい、^{じんない}基内様の事です、
ご存知ですか？

原 基内様？

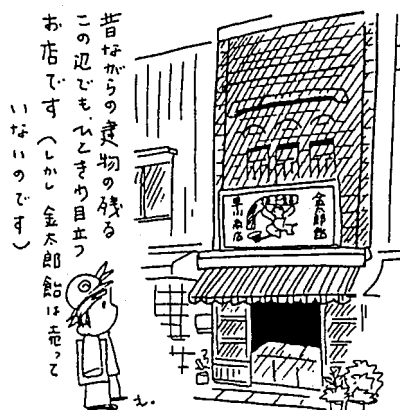
秩父 昔の大泥棒ですよ、と言う

より義賊と言っ方が良いでし
うか、武田の家臣で、高坂彈
正という人の子なのですが、
主家の再興を計り、賊になっ
たのですが、それが宮本武蔵
に剣を教ったという豪の者、
しかしオコリに罹り、遂に捕
まってしまったのです。

原 オコリ？

金太郎 鉛

早川商店



いなのいす

秩父 今で言う、マラリアの事ら

しいです、それで、俺はオコ
リにさえ罹らなければ捕まら
なかった、オコリに苦しむ者
は我を念じよ、と言いつつ鳥
越刑場の露と消えたのです。
原 ええー／＼鳥越に刑場があつた
のですか？

秩父 そうらしいですね、それで

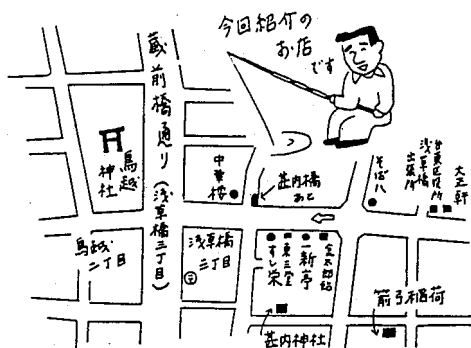
基内様は、オコリの神様となっ
たのです、基内神社と言いま
すが、今も、毎年八月十二日
に、小さなお祭りがあります、
そしてその基内様のそばの橋
を、いつか基内橋と言う様
になったのですね、三味線堀か
ら隅田川にそそぐ水路があり、
花見の頃は、皆で鳴物入りで
下ったそうです。

原 イヤー、情趣がありますね。

秩父 さて、そろそろ御案内の方
へコマを進めないと、オコリ
でなく、オコラレテしまいま

すね、それではその基内橋の
あった、この通りのお店を御
案内させて頂きましょう、先
ず洋食の一新亭さん。そして、
そば屋のそば八さん。中華の
中華楼さん。寿司のすし栄さ
ん……と、バラエティがあつて
良いでしょう。

原 有難うございました、ウィ、
(と言いつつ、鳥越の夜も更
けてゆくのでした)。



洋食

一新亭

〇八五一四〇二九

創業は明治の末、当時、一番新しいものを、と言う事で、一新亭と名付けたのだそう、きつとハイカラな人だったのだと思います。今の御主人は、三代目、その古き良き時代の下町の味を大切にし、特に、ソースには心を配り、何と

一新亭さん

11種類
ものス
パイス
を使用
してい
るのだ
そうで
す。そ
のソー
スをベ
ースに
した、



生蕎麦

そば八

〇八六三三七五三〇

一茶のふる里、妙高戸隠高原の霧下蕎麦粉を使用、とありますが、決して格式ぶったお店ではありません。もり380円、ざるは450円ですが、セットメニューが好評で、三

ハヤシライス800円、カツレツ1,000円、オムレツ700円、カレーライス600円等、好評、是非御賞味下さい。

それから、何とノ御主人の秋山武雄さんは、写真集団・むぎの代表で、その筋の有名な、下町を撮り続けて20年。御主人の、その懐しくも味わいのある、モノクロ写真（見せて頂きましたが、素晴らしい）の様に、下町らしい、味わいのあるお店です。

☆営業時間 11時半～8時半

☆定休日 毎週日曜日

そば八さん



種あり、天丼・カツ丼・親子丼に、温たかいそば又はうどんが付いて800円～900円。その他、力うどん（餅がうまい）580円、カレー南蛮（カレーは、ルーが特製）580円などが好評、これは、若い人向きです。それから、一寸変っているものでは、特製まぜごはん300円（お袋の味と評判）。他、にしんそば、もつ煮込みうどん等お推め

☆営業時間 11時～4時

夕5時～8時

☆定休日・日曜・祭日

中国料理

中華楼

☎八五一〇七三七

中華街かと見迷う外観に、先ずびつくり。その外観の様に、本格中華のお店です。「うちの特長は、ラードなど一切使わず、植物油のみで調理している事です」と、御主人、なる程、これなら、口あたりもしつこくなく、コレステロールの心配もありませぬね。しかもポリウームたっぷり。「コースで食べられぬ事を

中華楼さん



お推めします」と、さらに御主人、

コースは5,500円〜6,500円まであり、しかもプラス1,600円で、飲み放題コースとなり、お得、5名〜45名までOKです。それから、最近評判の粥と、スープの種類の多さは特筆ものです。クコの実や蛇、鹿角、冬虫夏草などの漢方スープ（事前の予約が必要なのもあります）等、試してみたいですね。御徒町、多慶屋5号店トナリにも、お店があります。

☆営業時間 昼11時半〜夜9時半

☆定休日 毎週土曜日

寿司

すし栄

☎八五一三〇三一

ご主人は、銀座の、すし栄におられ、20年前に暖簾分けで、この地で始められたそうですが、そのすし栄時代の事です、何と、

昭和天

皇陛下

の前で

寿司を

にぎっ

た事が

あり、

それは

緊張し

たそう

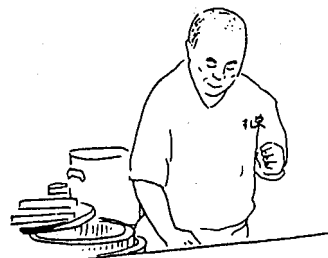
です。

さて、お店のお推めは、上バラちらし1,950円、かめちらし（刺身と御飯が分かれている）2,050円、にぎりは、1,950円より1,950円。サラリーマンの方や、御家族づれに喜ばれている、庶民的なお店です。カウンター8席、4人掛けの小あがりがあります。宴会は不可、とても落ちつけるお店ですね。

☆営業時間 昼11時半〜夜10時半（途中休みなし）

☆定休日 毎週火曜日

すし栄さん



さて、いよいよ長くかせて頂きました、「食べある記」も、この柳ばしをもつて、終了となる事になりました。

鳥越では秩父御夫婦より、若林昭一郎氏へと色々と、御苦労頂き、ここ柳ばしでも：原房男・芳枝御夫婦・楠木淳氏・石橋與吉氏と、本当に、本当に、これまで多くの人達に御面倒をお掛け致し、又、その土地／＼の事を教えて頂きました。本当に有難うございます。ここで、又、一つ、柳ばし方面の「食べある記」を載せさせて頂きたいと思います（次ページ）。

さて左図は、佃煮のお店としても紹介させて頂きました、「小松屋」さんです。この風景があまりに良いので、描かずにはおられませんでした。今、屋形舟が沢山、隅田川に浮かんでおりますが、この小松屋さんが、その草分けなのですね。御苦労も多かったです、お聞き致しました。

この頃は、桜橋の方にはあまり、カモメがいませんでしたので、この辺に來ると、カモメがいるので、「あー、海の近くなんだな」と嬉しくなるのでした。

この頃、SKDが、その長いレビの歴史を閉じるというので、やぶさんと秀さんとで新宿の厚生年金会館へ行き：群舞の素晴らしさも、もう見れないのかな、と思うのでした。この後、一寸前に、SKDを退団された、立原千穂さんの経営する、阿佐ヶ谷のスナックへ行き、（立原さんとは、この前にも、一寸お会いしていました）ところ、その少し後、SKDの団長という人も來られ（SKD：は、松竹歌劇団の略なのです）、「嗚呼！ 断腸の思いだよ」と苦しい洒落を言うのでした。

又、この頃、織田編集長は、新しい企画に思いを馳せるのでした。

それで、私の仲間「U F U 漫画同人」の、宇佐見さん、佐藤さん、鶴田さん、関さんに集ってもらう事になったのでした。

土。土。君の浅草散歩

④ 川のある町 その4

原えつお



詳しくは、小松屋さん (851) 2780 に聞いて下さい。